

藤枝 晃教授著作目録

- (書評) 『新元史考證』柯劭忞先生遺著第二種 『譯史補』柯劭忞先生遺著
 第三種 國立北京大學研究院文史部編 『東洋史研究』第一卷第二號 一
 六四—一六八頁 一九三五年二月
- (書評) 『考證法顯傳』足立喜六著 『東洋史研究』第一卷第五號 四六五
 —四六九頁 一九三六年六月
- (書評) スヴェン・ヘディン記念論文集 Hyllingskrift tillägnad Sven
 Hedin på hans 70-årsdag den 19 Febr. 1935. 『東洋史研究』第一卷第
 六號 五六九—五七四頁 一九三六年八月
- (書評) 『中央亞細亞の文化』(『東洋思潮』所收) 羽田亨著 『東洋史研究』
 第二卷第三號 二七六—二七七頁 一九三七年二月
- (書評) 『昭和十年度東洋史研究文獻類目』水野清一、森鹿三、増村宏、大
 島利一修纂 『東洋史研究』第二卷第四號 三八二—三八五頁 一九三七年四月
- (書評) 同書 『史林』第二三卷第二號 四二二—四二四頁 一九三七年四月
- 東洋史「學界展望」と「論文目錄」一覽 『中國文學月報』第二五號 三三
 —三五頁 一九三七年四月
- 『滿和辭典』羽田亨編(共編・今西春秋、三田村泰助、山本守) 京大滿蒙
 調査會 四七八頁 一九三七年二月
- マルコ・ポーロ旅行記の近刊諸校註本について(上・下) 『東洋史研究』第
 三卷第三號 二三一—二四三頁 第五號 四二六—四四〇頁 一九三八年二月、六月
- (書評) 『冊府元龜奉使部・外臣部索引』宇都宮清吉、内藤戊申共編 『東
 洋史研究』第四卷第一號 六九—七一頁 一九三八年一〇月
- 『昭和十一年度東洋史研究文獻類目』(共編) 東方文化研究所 一九三九年一月
- マルコ・ポーロ旅行記の近刊諸校註本に就いて補遺二則 『東洋史研究』第
 四卷第三號 二三〇—二三七頁 一九三九年三月
- (書評) マルコ・ポーロ『世界事情』第一、二卷 ムール、ペリオ共編
 『史林』第二四卷第二號 二一六—二一八頁 一九三九年四月
- マルコ・ポーロの傳へたる蒙疆事情 『東洋史研究』第四卷第四・五號 四
 二—四四八頁 一九三九年六月
- アレクセーエフの大地評(共譯・川崎直一) 『中國文學月報』第五二號 五
 九—六一頁 一九三九年七月
- アレクセーエフ教授の業績 『東方學報』京都第一〇册第一分 一三八—一
 四四頁 一九三九年七月
- (書評) 『崑崙漂流記の研究』園田一龜著 『史林』第二四卷第四號 八五
 〇—八五一頁 一九三九年一〇月
- 昔里吉思その他 『東洋史研究』第五卷第一號 六七—六八頁 一九三九年一〇月
- (書評) "Mongol Invasion of Poland in the 13th Century." 岩村忍著
 MRDTB No. 10 『東洋史研究』第五卷第一號 七四—七六頁 一九三九年一〇月
- 『昭和十二年度東洋史研究文獻類目』(共編) 東方文化研究所 一九三九年一〇月

- 【書評】 『一百七十五種日本期刊中東方學論文篇目附引得』 (引得特刊之十三) 于式玉、劉選民編 『東洋史研究』 第五卷第四號 三〇五—三〇七頁 一九四〇年六月
- 【書評】 *The Wandering Lake*, by Sven Hedin 『東洋史研究』 第五卷第五號 三七五—三七七頁 一九四〇年八月
- 【書評】 『支那書籍解題書目書志之部』 長澤規矩也編著 『東洋史研究』 第六卷第一號 六六—六七頁 一九四〇年二月
- フランク・發郎・拂蘇 『紀元二千六百年記念史學論文集』 六八七—六九七頁 一九四一年四月
- 【昭和十三、四年度東洋史研究文獻類目】 (共編) 東方文化研究所 一九四一年九月
- 沙州歸義軍節度使始末 (一一四) 『東方學報』 京都 第二二册第三分 三七〇—四一〇頁、第二二册第四分 四九四—五二七頁、第二三册第一分 六三—九五頁、第二三册第二分 二〇八—二六〇頁 一九四二年二月—一九四三年一月
- 【書評】 『中國基督教史綱』 王治心著 『支那基督教史』 比屋根安定著 一九四二年二月—一九四三年一月
- 『東洋文化史上の基督教』 溝口靖夫著 『東洋史研究』 第六卷第六號 四六四—四六六頁 一九四二年二月
- 支那基督教史その他 『支那宗教史』 白揚社 支那地理歴史大系一編 一九四二年二月
- 二九五—一三八三頁 一九四二年二月
- 高昌回鶻と龜茲回鶻 『東洋史研究』 第七卷第二・三號 六九—八六頁 一九四二年七月
- 宋史拂林傳について 『東洋史研究』 第七卷第二・三號 一二—二六頁 一九四二年七月
- 【發表概要】 宋史の回鶻・高昌・龜茲三傳について 『史學雜誌』 第五三卷第七號 八八—二頁 一九四二年七月
- 【書評】 『大唐西域求法高僧傳』 足立喜六譯註 『東洋史研究』 第七卷第四號 二七〇—二七三頁 一九四二年八月
- 【書評】 『歐米に於ける支那研究』 石田幹之助著 『東洋史研究』 第七卷第六號 四二七—四二九頁 一九四二年二月
- 【翻譯】 キジル千佛洞の調査生活からフォン・ル・コック著 『ひのもと』 第六卷第三號 二四—三〇頁 一九四三年三月
- 【書評】 『支那文化展望』 H・A・チャイルス著・森澤三郎譯 『支那・支那人』 鳥山喜一著 『耶律楚材』 岩村忍著 『乾隆帝傳』 後藤末雄著 『ひのもと』 第六卷第四號 四三—四四頁 一九四三年四月
- 【書評】 『東洋學の話』 石濱純太郎著 『東亞史論叢』 和田清著 『山西學術探險記』 朝日新聞社刊 『民元以來天主教史論叢』 葉德錄編輯 『ひのもと』 第六卷第六號 三一—三二頁 一九四三年六月
- 『民族學研究』 の更新と 『中國文學』 の廢刊 『ひのもと』 第六卷第六號 三二頁 一九四三年六月
- 【書評】 『蝸牛庵聯話』 露伴道人著 『笑ひなき國』 A・カマル著・山屋三郎譯 『學藝』 第六卷第七號 二五—二六頁 一九四三年七月
- 景教瑣記 『東洋史研究』 第八卷第五・六號 三一—三二頁 一九四四年三月
- 【翻譯】 ル・コックのトルファン發掘品と支那巨匠の畫風 ゴルタン・ド・タカチ著 『寶雲』 第三二册 三七—五二頁 一九四四年七月
- 【譯・補】 『ル・コック西域紀行』 27—33、37—43頁、圖版五四、地圖三葉 座右寶刊行會 一九四五年二月

【昭和十五、六年度東洋史研究文獻類目】(共編) 京都印書館

一九四五年五月

三尺談義 「新文學」第三卷第六・七號 六五—六八頁 一九四六年七月

天津の日本圖書保存事業 「學海」第三卷第五號 一八一—二二頁

一九四六年八月

東洋史便覽書目録 東洋學術協會油印 一九四六年一月

元朝の文人の傳へたキプチャク人の石人形 「學海」第四卷第五號 二三一—二五頁 一九四七年五月

征服王朝 「毎日新聞」文化フラッシュ 一九四七年八月一日

遼金 「中國史學入門」上 高桐書院 二五一—三二四頁 一九四七年八月

居庸關過街塔の建造 「建築史論叢」一 高桐書院 九三—一〇七頁 一九四七年一月

東洋的名君と記録官 「學園新聞」第五三號 一九四七年一月三日

(編) ペリオ教授著作目録 東方學術協會京都支部油印

花甕 「座右寶」一三號 一九四七年一月

伯顔「中華六十名家言行録」弘文堂 二二五—三二二頁 一九四八年二月

(翻譯) すねものの文人・李長源 「學藝」第五卷第二號 三三—三五頁 一九四八年三月

【征服王朝】(新學藝叢書 一六) 一九七頁 秋田屋 一九四八年三月

金朝の實錄 「東洋史研究」第一〇卷第二號 八〇—九二頁 一九四八年六月

【名君】唐の太宗 「東洋史研究」第一〇卷第二號 九二頁

(書評) 「萬安北沙城」東亞考古學會編 「蒙疆考古記」小野勝年、日比野

丈夫著 「東洋史研究」第一〇卷第二號 一三〇—一三四頁

藤枝 晃教授著作目録

游牧文化園 「知慧」第一〇號 四〇—四九頁 一九四八年六月

【長行馬】文書 「東洋史研究」第一〇卷第三號 二二—二七頁

(書評) 「東方史論叢」第一(北方史專號) 「東洋史研究」第一〇卷第三號 三二—三三頁

洋字篆刻 「華文國際」第二卷第六號 一〇—一一頁 一九四八年八月

凝塵洞詩話—洋字篆— 「自由文化」第二集 二六—二七頁

出でよ史學青年 (談話筆記) 「大阪時事新報」 一九四九年二月二八日

(編) 「世界史」第一—四號 一九四九年三月—五月

スエン・ヘディンの探險・沙とラクダと自動車 (一) (二) 「世界の子供」第一—二—四號 一九四九年四月—六月

(編) 「新制世界史」 平安文庫 一九四九年五月

草原帝國 「新制世界史」第八章 一二九—一四四頁 一九四九年五月

(書評) 「人間精神進歩の歴史」コンドルセ著・前川貞次郎譯 「所報」(人文研) 第四號 四頁 一九四九年九月

(書評) 「金瓶梅」一—四 小野忍・千田九三譯 「新日出新聞」第三號 一九四九年一月

(編) 「原始時代の生活」 三二〇頁 群芳園 一九五〇年二月

(編) 「自然と文化」I 自然史學會 一九五〇年五月

醉佛 「東山タイムス」第五號 一九五〇年六月

【昭和十七、八年度東洋史研究文獻類目】(共編) 全國書房 一九五〇年八月

一般史、社會史(展望) 「昭和十七、八年度東洋史研究文獻類目」三一—六、九—一頁 一九五〇年八月

三九五

- 【世界史小辭典】(共編) 世界史研究會編 平安文庫 一九五〇年六月
 (書評) 【現代中國の百科全書】マクネア著・沖野亦男譯 【學園新聞】第
 一九七號 一九五〇年十一月一日
- 李繼遷の興起と東西交通 【羽田博士頌壽記念東洋史論叢】 八二五—八四
 三頁 一九五〇年十一月
 アーサー・E・クリスティー『過去的感覺』—紹介—【所報】(人文研)
 第一六號 八—九頁 一九五〇年十一月
 (書評) 産業革命はまだ終らぬ (産業革命) 鈴木成高著 【學園新聞】
 第五九一號 一九五一年二月一九日
- 姫路から岡山へ【所報】(人文研) 第一九號 八—九頁 一九五一年三月
 (編) 【自然と文化】II 自然史學會 一九五一年四月
 (書評) わかる中國史(中國史概説 上) 和田清著、東洋的近代世 宮崎市
 定著 【毎日新聞】 一九五一年四月二日
- 樓蘭とロプ・ノール【所報】(人文研) 第三三號 八—九頁 一九五一年八月
 (書評) The Nestorianism in China 【英文毎日】 一九五一年八月一三日
 敦煌學の現段階【所報】(人文研) 第二七號 一一—二頁 一九五二年一月
 (書評) 黃文弼『羅布淖爾考古記』中國西北科學考察團叢刊之一 民國三七
 年、國立北平研究院史學研究所・中國西北科學考察團叢刊之『遊牧民族
 の社會と文化』ユーラシア學會研究報告(『自然と文化』別編I) 二二〇
 —二二四頁 一九五二年二月
- “Current Trends in Japanese Studies of China and Adjacent Areas.”
 (Wilma Fairbank と共編) *Far Eastern Quarterly* XIII-1 三十一—四七
 頁 Nov. 1953
- (編) 【自然と文化】III 自然史學會 一九五三年三月
 古鈔 平凡社『書道全集』I (園田湖城と合著) 二〇七—二二二頁、圖一
 一五—二二頁 一九五四年九月
- 漢簡職官表 【廿五周年記念論文集】 六三〇—六五七頁 一九五四年一〇月
 【居庸關】II (村田治郎と共編) xv+1—〇四圖 京都大學工學部 一九五五年三月
 長城のまもり—河西北地方出土の漢代木簡の内容の概観—『遊牧民族の研究』
 ユーラシア學會研究報告(『自然と文化』別編II) 二二九—三四四頁
 一九五五年四月
- 【居庸關】II について【所報】(人文研) 第四四號 三一—六頁 一九五五年七月
 釋「見署用穀」ほか—「長城のまもり」訂誤 『東洋史研究』第一四卷第一
 ・二號 一五一—一五六頁 一九五五年七月
- 長行馬 【墨美】六〇號 本文二—三頁、圖版・釋文一四—三四頁 一九五六年一月
 【中國古印特別展觀】 有隣館油印 一九五五年二月
- 【居庸關】I 村田治郎編 京都大學工學部 一九五七年三月
 執筆部分I 第一編第二章 居庸關過街塔の沿革 二—三六頁 第二編第
 一章 刻文總論後半 一二七—一三四頁 第二章 4 ウィグル大字刻文
 一六一—一六九頁(江實と共作) 第三章 3 ウィグル小字刻文 二七〇
 —二七八頁 第三章 5 漢字小字刻文 三〇七—三三二頁 英文 三三三
 —三五五頁(E.Sargent と共作)
- Research in History of Eastern and Western Cultural Contacts.* (共編・
 松田壽男) Japanese National Commission for UNESCO.

一九五七年一〇月
執筆部分 III-2-2 "The Tangut History" p. 54, V-8 "The Western Im-
migrants to China" pp. 119-120.

スタイン蒐集中の『佛頂尊勝陀羅尼』、『神田博士還曆記念書誌學論集』 四
〇三―四二一頁 一九五七年一月

維摩變の一場面―變相と變文との關係 『佛敎藝術』三四號 八七―九五頁
一九五八年五月

西夏經 石と木と泥と―現存する最古の木活字本について 『石濱博士古
稀記念東洋學論叢』 四八四―四九三頁、圖版一葉 一九五八年一月

漢印 平凡社『書道全集』II 一六三―一六九頁、圖一八一―一九頁
一九五八年一月

敦煌の僧尼籍 『東方學報』京都第二九册 二八五―三三八頁
一九五九年三月

漢簡の字すがた 『墨美』九二號 一六―四〇頁 一九五九年一月

オアシス敦煌 『圖說世界文化史大系 中國II』 一五七―一六四頁
一九五九年三月

敦煌學のこのごろ 『群像』第一四卷第六號 一八四―一八五頁
一九五九年六月

契丹と黨項・女眞の華北支配 『圖說世界文化史大系 中國III』 一一三―
一二五頁 一九五九年八月

殷人の繪文字 『淡交』第二三卷第一〇號 古くて新しいデザイン 二
八頁、圖一―四 一九五九年一〇月

(書評) 『敦煌吐魯番社會經濟史料』(上) 西域文化研究第二 『東洋史研
究』第一八卷第四號 五九一、五九八―六〇〇頁 一九六〇年三月

藤枝 晃教授著作目録

敦煌寫經の字すがた 『墨美』九七號 一一四〇頁 一九六〇年五月

敦煌かみくず説の辯 『朝日新聞』 一九六〇年一月三日

囉齋印談 『淡交』第二五卷第一號 一七八―一八二頁 一九六一年一月

敦煌出土の長安宮廷寫經 『塚本博士頌壽記念佛敎史學論集』 六四七―六
六七頁 一九六一年二月

吐蕃支配期の敦煌 『東方學報』京都第三一册 一九九―二九二頁
一九六一年三月

敦煌學の展開 『歴史教育』第一〇卷第五號 二五―三一頁
一九六二年五月

北朝寫經の字すがた 『墨美』一一九號 一一三六頁 一九六二年七月

大谷大學藏北魏寫本『華嚴經』卷第四十七 『墨美』一二〇號 一一三六頁
一九六二年八月

囉齋茶話 『淡交』第二六卷第九號 九一―九四頁 一九六二年九月

チベット譯「無量壽宗要經」の敦煌寫本(共著・上山大峻) 『ピブリア』二
三號(富永先生華甲記念號古版書誌論叢) 三四五―三五六頁
一九六二年一〇月

京大藏中國古印目録 『京都大學文學部博物館考古學資料目録』第三部 二
四〇―二四五頁 一九六三年三月

生きていた懷德堂 『朝日新聞』 一九六三年五月

『敦煌發現チベット語文書試釋』遊牧社會探究 第二三册 一一―一六頁
一九六三年一〇月

千佛洞の龍 『日本美術工藝』三〇四號 一五一―二〇頁 一九六四年一月

敦煌千佛洞の中興―張氏諸窟を中心とした九世紀の佛窟造營 『東方學報』
京都第三五册 九一―三九頁 一九六四年三月

通譯雜記 「中國學術代表團京都訪問記録」事務局報告四 一九六四年四月
 テラ・インコグニタの探検家たち 「太陽」第一一號 一九六四年五月
 逆さまにヘディンを読む 「ヘディン中央アジア探検紀行全集」月報一
 (第一〇卷) 一九六四年六月

慈恩大師像(解説) 「サンデー毎日」 一九六四年八月
 ハンコ天國 「文藝春秋」第四二卷第九號 五七―五九頁 一九六四年九月
 維摩變の系譜 「東方學報」京都第三六册 二八七―三〇三頁

歐洲の博物館をめぐる 「日本美術工藝」三一五、三一七―三二七號
 一九六四年二月―六月五年二月

- (1) タシュケントの二日間 「日本美術工藝」三二五號 三六―四一頁
- (2) (4) エルミタージュの驚異(上)(中)(下) 同三二七號 八―八頁
- 九二頁 三一八號 八六―八九頁 三二九號 一〇六―一一〇頁
- (5) ソ連民族學博物館の蓄積 同三三〇號 八〇―八五頁
- (6) ストックホルムの民族學博物館と北方博物館 同三三二號 九二―九七頁
- (7) コペンハーゲンの國立博物館と意匠工藝博物館 同三三二號 四〇―四五頁

- (8) ケンブリッジ大學 同三三三號 二四―二九頁
 - (9) フランスの古城 同三三四號 二二―二七頁
 - (10) ショヴィニの古城 同三三五號 二〇―二五頁
 - (11) (12) ニューデリーの國立博物館(上)(下) 同三三六號 三六―四一頁
- 頁 三二七號 二六一―三三頁

日本の展觀法に一言 「讀賣新聞」(大阪) 一九六五年一〇月七日

レニングラードの東洋學アルヒーフ 「圖書」第一九七號 三七―四〇頁
 一九六六年一月
 "The Tunhuang Manuscripts. A General Description" Part I. ZINBYN
 no. 9. 一―三三頁 一九六六年三月
 スタインコレクションの「層」 「圖書」第一九九號 三二―三五頁
 一九六六年三月

ペリオ蒐集中の北魏敦煌寫本 「誠實論」卷第八(P. ch. 2179) 「墨美」一
 五六號 一―三六頁 一九六六年三月
 大谷コレクションあれこれ 「西域探検全集」月報1(第9卷) 四―六頁
 白水社 一九六六年五月

(翻譯) Martha Boyer, 詩繪小笥笥(デンマーク國立博物館藏) 「日本美術工藝」三三三號 へ一館一品 八八―九三頁 一九六六年五月
 ペリオコレクション複寫始末記 「圖書」第二〇一號 八―一一頁 一九六六年五月
 ハンブルグのゼミナール 「圖書」第二〇二號 四―七頁 一九六六年六月
 飛雲閣の宵 「圖書」第二〇四號 一〇―一三頁 一九六六年八月
 (翻譯) Martha Boyer, 日本の精靈たち 「讀賣新聞」 一九六六年八月一九日

オフエリアの末裔 「圖書」第二〇五號 二二―二六頁 一九六六年九月
 インド省圖書館のスタイン收集寫本 「西域探検全集」月報3(第8卷)
 三一六頁 白水社 一九六六年九月
 二人のケンブリッジ・メン 「圖書」第二〇七號 二〇―二三頁 一九六六年十一月

文字の生立ち 「日本美術工藝」三四一―三四七、三四九―三五九號

一九六七年二月—六八年八月

- (1) 殷人の繪文字 『日本美術工藝』三四一號 八四—九〇頁
 - (2) 神々との對話 同三四二號 五四—五九頁
 - (3) 饗養の背面 同三四三號 五六—六一頁
 - (4) 皇帝の文字 同三四四號 六四—六九頁
 - (5) 木簡・居延筆 同三四五號 五八—六四頁
 - (6) 政治の文字 同三四六號 六一—六七頁
 - (7) 印章 同三四七號 五六—六一頁
 - (8) 絹 同三四九號 四六—五一頁
 - (9) 紙の出現 同三五〇號 五八—六三頁
 - (10) 卷子本 同三五一號 五〇—五五頁
 - (11) 楷書 同三五二號 六四—七〇頁
 - (12) 古文書 同三四三號 六一—六八頁
 - (13) 折本・册子・ペン書き 同三四四號 五八—六四頁
 - (14) 漢字の周邊 同三五五號 六一—六七頁
 - (15) 印刷⑤ 同三五六號 五八—六三頁
 - (16) 不滅への願い 同三五七號 四八—五二頁
 - (17) 印刷⑥木版 同三五八號 三四—三九頁
 - (18) 印刷⑦活版 同三五九號 五八—六四頁
- 第三のこよみ 『讀賣新聞』 一九六七年二月
- マクロ學會とミクロ學會・『讀賣新聞』 一九六七年九月
- 天理圖書館への熱情 『Daiko Rigger』 中正正善君追悼臨時號 九五—九八頁 一九六七年二月
- アメリカの博物館・美術館のぞき 一九六八年一月—三月

藤枝 晃教授著作目録

- (1) シカゴの三つの博物館 『淡交』第三一卷第一號 五〇—五五頁
 - (2) ミシガン大學とクリーブランド美術館 『淡交』第三一卷第二號 八—九二頁
 - (3) ニューヨークとボストン 『淡交』第三一卷第三號 九二—九七頁
- 大阪文化に『オアシス』石濱純太郎先生をいたむ 『讀賣新聞』 一九六八年二月二日
- 三つの學恩 『桑原臨藏全集』I月報六一—八頁 一九六八年二月
- 敦煌册子本『觀音經』『墨美』一七七號 英文概要二頁、本文三十八頁、圖版・釋文九—四四頁 一九六八年三月
- デンマーク國立博物館の一日 『IDE』七九號 二二—二八頁、圖八 一九六八年四月
- (講演概要) 偉大なる町人學者—石濱純太郎と大阪文化 *Osaka Rotary Club Weekly Bulletin*, No. 689. 一—二頁 一九六八年四月三〇日
- 扇と寶 『圖書』第三三〇號 二八—三二頁 一九六八年一〇月
- 中國北朝における『勝鬘經』の傳承 (發表概要) 『聖德太子研究會研究報告』一一—一五頁 一九六八年一二月
- (書評) 『京都百佛』鹿島研究所出版會 『京都新聞』 一九六八年一二月
- 町人學者・石濱純太郎 『圖書』第三三四號 三〇—三三頁 一九六九年二月
- 北朝における『勝鬘經』の傳承 『東方學報』京都第四〇册 三二—三五頁 一九六九年三月
- 中國古銅印・法帖と拓本 寧樂美術館『寧樂譜』 九九—一〇〇頁 一九六九年四月
- 『勝鬘經』とその注釋書 角川書店『佛教の思想』月報7 六一—八頁 一九六九年五月

- ラグビーの革命児・村山仁 『京都新聞』『忘れ得ぬ人』 一九六九年五月
 (編) 『湖城』(園田湖城遺作展圖録) 滋賀縣立琵琶湖文化館 三二頁
 一九六九年六月
- 寧樂美術館 『古美術』二六號 『美術館探訪』 一三三—一三四頁
 一九六九年六月
- 園田湖城 『墨美』第一九四號 一—四四頁 一九六九年一〇月
 印人・園田湖城 『圖書』第二四四號 三六—三九頁 一九六九年二月
 "The Tunhuang Manuscripts. A General Description" Part II. ZINBYN
 no. 10. 一七一—一九頁 一九七〇年三月
- 樓閣文書札記 『東方學報』京都第四一冊 一九七—二二五頁 一九七〇年三月
 矢野先生と「昭和六年」 『東洋史研究』第二八卷第四號「矢野仁一博士追悼
 號」 三〇—三三頁 一九七〇年三月
- 筆書きの運命 『讀賣新聞』 一九七〇年四月七日
 元代文化の世界性 日本と世界の歴史十一「十四世紀」 二四〇—二四五頁
 一九七〇年六月
- ゴア副王書簡 『京都新聞』『門外不出』 一九七〇年七月一日
 『平倉穿帯印百選』不分卷 (編・序) 京都同風印社 序・目七葉 印箋一
 〇〇葉 一九七〇年八月
- 敦煌寫本の研究(共同研究のうごき) 『人文』第一號 一六一—一七頁
 一九七〇年八月
- ふたりの副所長 『へるぶれす』五號 五一—六頁 一九七〇年二月
 敦煌寫本の研究(共同研究のうごき) 『人文』第二號 二八一—二九頁
 一九七一年三月
- 旅だより 『人文』第二號 三五—三八頁 一九七一年三月
 ベイリー教授の來講 『人文』第三號 一四—一五頁 一九七一年八月
 コペンハーゲンの學生たち 『以文』第一四號 一九—二二頁
 一九七一年一〇月
- 『文字の文化史』 一一—二八〇頁 岩波書店 一九七一年一〇月
 神話の尾 『圖書』第二六八號 一頁 一九七一年二月
 國外との交流(共同研究のうごき) 『人文』第四號 三〇—三一頁
 一九七一年二月
- ロンドンからの便り 『人文』第四號 四一—四二頁 一九七一年二月
 于闐の風 『日本美術工藝』四〇〇號 二六—三三頁 一九七二年一月
 書道—このふしぎな藝術 『朝日新聞』夕刊 一九七二年一月二二日
 敦煌寫本の編年研究 『學術月報』第二四卷第一二號 七〇九—七一三頁
 一九七二年三月
- (同右複印)『中國關係論說資料』第14號第二分冊(下) 22—24頁
 私の『日本精神』 『圖書』第三七四號 四〇—四四頁 一九七二年六月
 會讚の功 『人文』第五號 二—三頁 一九七二年六月
 (書評) 『日本人のこころ—文化未來學への試み』梅棹忠夫ほか著 『人文』
 第五號 一九頁 一九七二年六月
- (書評) 『遼金元人傳記索引』梅原郁・衣川強著 『人文』第六號 二〇頁
 一九七三年一月
- (翻譯) ティロ、東獨科學アカデミーの古代東洋研究の現状 『朝日新聞』
 夕刊 一九七三年一月一〇日
- 百五十年前と百年前 『圖書』第二八三號 三八—四一頁 一九七三年三月
 京の西陣 『月刊高層住宅』七〇號卷末折込 一九七三年三月

(書評) 『世界史の中の明治維新』坂田吉雄・吉田光邦共著 『人文』第七號 一六頁 一九七三年五月

流沙海西學會賞(桑山正進君) 『人文』第七號、おくりもの 三九頁 一九七三年五月

マルコポーロとの格闘 『毎日新聞』、ほんとの出会い、 一九七三年六月

竹簡・木簡の作り方 『アサヒグラフ』臨時増刊號(中華人民共和國出土文物展) 一八一―一九頁 一九七三年六月二〇日

幻の宗派・三階佛法 『三階教の研究』内容見本 岩波書店 一九七三年六月

(翻譯) Thilo, ドイツ民主共和國アカデミーにおける古代東洋研究の現状 『東方學』第四六輯 横組152―148頁 一九七三年七月

敦煌學の一轉機 『敦煌祕籍留眞』内容見本 臨川書店 一九七三年八月

敦煌曆日譜 『東方學報』京都第四五册 三七七―四四一頁 一九七三年九月

青白眼の構え 『圖書』第二九〇號 二八一―三三頁 一九七三年一〇月

『The Tun-huang Manuscripts. Essays on the Sources for Chinese History (Fitzgerald Feastschrift) Canberra Nov. 1973. pp. 120-128. 『TDKカレンダー』(監修・解説) 一九七三年十一月

(書評) 『堺市史』續編第二・三卷 渡部徹ほか著 『人文』第九號 一九七三年十一月

九頁

ソルンツェフ氏 『人文』第九號、お客さま、 二二頁 一九七三年十二月

(翻譯) A. F. P. Hulswé, 漢代における絹貿易の要因 『東方學』第四七輯 一〇四―一八頁 一九七四年一月

閩廬堂狂言―京を歩けば一〇六一 『三洋化成ニュース』二四三號 二〇一

藤枝 晃教授著作目録

二二頁 一九七四年四月

北野界限―京を歩けば一〇七一 『三洋化成ニュース』二四四號 二〇一―二二頁 一九七四年五月

堀河古義堂―京を歩けば一〇八一 『三洋化成ニュース』二四五號 二〇一―二二頁 一九七四年六月

『文字の文化史』に至るまで、アジア學の系譜、第二回(對談・矢野暢) 『月刊アジア』九卷七號 一一〇―一二三頁 一九七四年七月

『江左留印存後集』(編・跋) 京都 同風印社 一九七四年八月

(講演摘録) 三經義疏についての私見 『讀賣新聞』 一九七四年二月二八日

(講演概要) オアシスの都市國家・敦煌(一九七四年夏期講座) 『人文』第一一號 五一―六頁 一九七四年二月

『Bemerkungen zu Fragment Ch 422 und damit zusammenhängenden Fragmenten』(Th. Thilo 共著) Anhang zu Katalog chinesischer buddhistischer Textfragmente Band 1. Berliner Turfan Texte VI. Berlin 1975. SS. 205-209.

二二の學會 『今西錦司全集』第七卷折込月報 四一―六頁 一九七五年三月

探検・學問・異端(對談・四手井綱英) 『朝日新聞』(京都版) 一九七五年三月二五日

『聖徳太子集』 日本思想大系第二卷(共著・家永三郎、早島鏡正、築島裕) 岩波書店 [解説] 勝鬘經義疏 四八四―四五四頁、(參考) E本(勝鬘義疏本義)敦煌本) 校録 四二九―四五九頁 一九七五年四月

敦煌學の現段階 『圖書』第三〇九號 二一―一七頁 一九七五年五月

(同右漢譯) 黃得時「現階段的敦煌學」『中華文化復興月刊』九卷一期) 四〇一